### **GOLD WIRE FOR BONDING**

Patent number:

JP8127828

**Publication date:** 

1996-05-21

Inventor:

MIMURA TOSHITAKA; ITABASHI KAZUMITSU

**Applicant:** 

TANAKA DENSHI KOGYO KK

Classification:

- international:

C22C5/02; H01L21/60

- european:

Application number: JP19940265665 19941028

Priority number(s):

#### Abstract of JP8127828

PURPOSE: To produce a gold wire for bonding for IC chip connection, capable of giving the prescribed shear strength even if bonding area (bond diameter) is decreased and extremely useful for making semiconductor devices

high-concentration and high-performance.

CONSTITUTION: A master alloy, prepared by incorporating, by weight, 1,000-400,000ppm of Pd and Pt, 1-500ppm In, Sb, and Sn, and 1-500ppm of Be, Ca, Ge, Ru, Cu, Fe, Mg, and rare earth elements into high purity gold, is melter in a vacuum melting furnace and then cast. Subsequently, cold working using a grooved roll and a wiredrawing machine and annealing are repeatedly carried out, by which the gold wire is finished into a fine wire of 20&mu m fine wire diameter and 4% elongation.

(19)日本国特許庁 (JP)

## (12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-127828

(43)公開日 平成8年(1996)5月21日

(51) Int. Cl. 6

識別記号

FΙ

C22C 5/02

H01L 21/60

301

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全10頁)

(21)出願番号

特願平6-265665

(71)出願人 000217332

田中電子工業株式会社

東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番6号

(22) 出願日

平成6年(1994)10月28日

(72) 発明者 三村 利孝

東京都三鷹市下連雀8-5-1 田中電子

工業株式会社三鷹工場内

(72)発明者 板橋 一光

東京都三鷹市下連雀8-5-1 田中電子

工業株式会社三鷹工場内

(74)代理人 弁理士 早川 政名

#### (54) 【発明の名称】ボンディング用金線

#### (57)【要約】

【目的】接着面積(圧着径)を小さくしても所定の剪断強度が得られ、半導体装置の高密度化、高機能化に対して極めて有用な I Cチップ接続用ボンディング用金線を提供する。

【構成】高純度金にPd, Pt:1,000~400,000 重量ppm、 In, Sb, Sn:1~500 重量ppm、 Be, Ca, Ge, Ru, Cu, Fe, Mg, 希 土類:1~500 重量ppm を含有した母合金を真空溶解炉で溶解したのち鋳造し、溝ロール、伸線機を用いた冷間加工と焼鈍を繰り返し、最終線径 $20\,\mu$  m、伸び率 $4\,\%$ の細線になるように仕上げた。

#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 高純度金にパラジウム (Pd), 白金 (Pt) の内少なくとも1種を1,000~400,0 00重量ppm含有すると共に、インジウム(In), アンチモン (Sb), 錫 (Sn) の内少なくとも1種を 1~500重量ppm含有することを特徴とするICチ ップボンディング用金線。

【請求項2】 高純度金にパラジウム (Pd), 白金 (Pt) の内少なくとも1種を1,000~400,0 00重量ppm含有すると共に、インジウム(In), アンチモン (Sb), 錫 (Sn) の内少なくとも1種を 1~500重量ppm含有し、さらにベリリウム(B e), カルシウム (Ca), ゲルマニウム (Ge), ル テニウム (Ru), 銅 (Cu), 鉄 (Fe), マグネシ ウム (Mg), 希土類の内少なくとも1種を1~500 重量ppm含有することを特徴とする ICチップボンデ ィング用金線。

#### 【発明の詳細な説明】

#### [0001]

【産業上の利用分野】本発明は I C チップのボンディン 20 グ用金線に関し、詳しくは、ICチップのAl電極と外 部リードとを接続するために用いられるボンディング用 金線、及び、ICチップのAI電極と基板又は外部リー ドとを接続するバンプ形成に用いられるボンディング用 金線に係わる。

#### [0002]

【従来技術】近年、半導体装置の組立てにおいて、IC チップ上のA1電極部とリードフレームのAuめっき端 子部を接続する方法として、超音波併用熱圧着法を用い たワイヤボンディング方法が主として採用されている。 【0003】この方法を図1(a),(b)を参照して 説明する。図中1は金線で、該金線1はキャピラリ2先 端から導出され、その導出部がトーチ3により加熱溶融 されてボール4を形成する。次にトーチ3を後退させた 後キャピラリ2を下方に移動させ、そのフェイス5でボ ール4を押圧すると同時に超音波を印加して、ICチッ プ6上に形成された電極部7に金線1をボンディングす る。この時、図1(b)に示すように、圧着ボール8は 鼓型に変形して電極部7に金線1をボンディングする。

【0004】一方、半導体装置は近年ますます高密度 化、高機能化され、ピン数が増大している。このような 状況の中で、半導体チップサイズを大きくすることなく 多ピン化に対応するために、ボンディング部一ケ所当り の接着面積(圧着径)を小さくすることが要求されてい

【0005】また、ICチップ上のAl電極部と基板を 接続する方法として、フリップチップ法が従来から採用 されている。この方法は、前述した超音波ボールボンデ ィング法において、ICチップ上のAI電極部上で鼓型 に変形した部材からワイヤを切断除去し、該変形した部 50 着面積 (圧着径) を小さくしても、所定の剪断強度が得

材をバンプと呼び、このバンプを介してICチップ上の Al電極部と基板を接続する方法である。該パンプを介 したフリップチップ法においても、多ピン化に対応する ため、ボンディング部一ケ所当たりの接着面積(圧着

径)を小さくすることが要求されている。

【0006】これらの要求に対して、超音波ボールボン ディング法では接着面積がワイヤ径の3.75倍程度に まで大きくなり、前記要求に対して問題を有している。 これに対してワイヤ径を小さくしたり、超音波ボールボ 10 ンディング条件を変更して接着面積を小さくする試みが なされているが、この場合剪断強度が低下するという問 題が生じてくる。

#### [0007]

【発明が解決しようとする課題】上述の通り、最近の多 ピン化傾向への対応として、ICチップ上の電極部と金 属ワイヤのボンディング部の接着面積(圧着径)を小さ くする必要が生じている。単にボール径を小さく制御し て接着面積を小さくすることは可能であるが、この場 合、ボンディング部において剪断強度が低下するという 問題を残している。このため、本発明においては、金合 金線の組成を改良して、接着面積を小さくしても所定の 剪断強度が得られるICチップ接続用ボンディング用金 線を提供せんとするものである。

#### [0008]

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成するた めに、本願第1発明のICチップボンディング用金線 は、高純度金に、パラジウム(Pd),白金(Pt)の 内少なくとも1種を1,000~400,000重量p pm含有すると共に、インジウム(In), アンチモン (Sb), 錫(Sn)の内少なくとも1種を1~500 重量ppm含有することを特徴とする。

【0009】また本願第2発明のICチップボンディン グ用金線は、高純度金に、パラジウム (Р d), 白金 (Pt) の内少なくとも1種を1,000~400,0 00重量ppm含有すると共に、インジウム (In), アンチモン (Sb), 錫 (Sn) の内少なくとも1種を 1~500重量ppm含有し、さらにベリリウム(B e), カルシウム (Ca), ゲルマニウム (Ge), ル テニウム(Ru), 銅(Cu), 鉄(Fe), マグネシ ウム (Mg), 希土類の内少なくとも1種を1~500 重量ppm含有することを特徴とする。

#### [0010]

【作用】以下、本発明の構成についてさらに説明する。 本発明で使用する出発原料は、高純度金、例えば純度が 99.99重量%以上の金を含有し、残部が不可避不 純物からなるものである。該出発原料に、 Pd, Pt, In, Sb, Snを上記構成となるよう含有した組成に することにより、それら金属元素同士の相乗効果によっ て、超音波ボールボンディング法で熱圧着した場合、接

30

られる I Cチップ接続用ボンディング用金線を得ることが出来る。

【0011】次に、本発明の金線の成分組成を上記の通り限定した理由を説明する。

[Pd, Pt] Pd, Ptのうち少なくとも1種の成分 は、In, Sb, Snのうち少なくとも1種の成分との 共存において、超音波ボールボンディング法で熱圧着し た場合、接着面積(圧着径)を小さくしても所定の剪断 強度が得られるという優れた効果を有する。Pd,Pt のうち少なくとも1種の含有量が1,000重量ppm 10 未満では所定の剪断強度を得るためには接着面積が大き くなり、400,000重量ppmを越えると所定の剪 断強度が得られない。このため、Pb, Ptのうち少な くとも1種の成分の含有量は1,000~400,00 O重量ppmと定めた。Pd, Ptのうち少なくとも1 種の成分を単独で含有させた場合は、所定の剪断強度を 得るためには接着面積が大きくなるため、In, Sb, Snのうち少なくとも1種の成分との共存が必要であ る。Р d, Р t のうち少なくとも1種の成分のより好ま しい含有量は1,000~100,000重量ppmで 20 あり、この範囲において、接着面積を小さくしても剪断 強度はより優れた効果を示す。

[0012] [In, Sb, Sn] In, Sb, Sn0 うち少なくとも1種の成分は、Pd, Ptのうち少なく とも1種の成分との共存において、超音波ボールボンデ ィング法で熱圧着した場合、接着面積(圧着径)を小さ くしても所定の剪断強度が得られるという優れた効果を 有する。 In, Sb, Snのうち少なくとも1種の含有 量が1重量ppm未満では所定の剪断強度を得るために は接着面積が大きくなり、500重量ppmを越えると 30 所定の剪断強度が得られない。このため In, Sb, S nのうち少なくとも1種の成分の含有量は1~500重 量ppmと定めた。In, Sb, Snのうち少なくとも 1種の成分を単独で含有させた場合は、所定の剪断強度 を得るためには接着面積が大きくなるため、Pd、Pt のうち少なくとも1種の成分との共存が必要である。 I n, Sb, Snのうち少なくとも1種の成分のより好ま しい含有量は1~100重量ppmであり、この範囲に おいて、接着面積を小さくしても剪断強度はより優れた 効果を示す。

【0013】 [Be, Ca, Ge, Ru, Cu, Fe, Mg, 希土類] Be, Ca, Ge, Ru, Cu, Fe, Mg, 希土類のうち少なくとも1種の成分は、Pd, Ptのうち少なくとも1種の成分、及び、In, Sb, S

nのうち少なくとも1種の成分との共存において、超音波ボールボンディング法で熱圧着した場合、接着面積 (圧着径)を小さくしても所定の剪断強度が得られる I Cチップ接続用ボンディング用金線を得ることが出来る。本発明においては、Pd, Ptのうち少なくとも1種の成分、及び、In,Sb,Snのうち少なくとも1種の成分を共存させることが必要であり、Be,Ca,Ge,Ru,Cu,Fe,Mg,希土類のうち少なくとも1種の成分を1~500重量ppmの範囲で共存させても同様の効果が得られる。Be,Ca,Ge,Ru,Cu,Fe,Mg,希土類のうち少なくとも1種の成分のより好ましい含有量は1~100重量ppmであり、この範囲において、接着面積を小さくしても剪断強度はより優れた効果を示す。

[0014]

【実施例】次に、実施例により本発明をさらに詳しく説明する。

「実施例1〕表1~表3に示す組成となるように、9 9 9 9 重量%の金地金と各元素を含む母合金を真空溶解炉で溶解したのち鋳造し、溝ロール、伸線機を用いた冷間加工と焼鈍を繰り返し、最終線径20μm、伸び率4%の細線になるように仕上げた。この細線をボンディングワイヤとして高速自動ボンダを用いてシリコンチップ上に付着したA1膜に超音波併用熱圧着ボンディングを行った。超音波出力は0.27W、圧着荷重は60gfとした。まず細線を用いて常温強度試験を行い、さらに上記ボンディングを行った後、剪断強度、圧着径(接着面積)の測定を行った後、剪断強度、圧着径(接着面積)の測定を行った。その結果を表4に示す。【0015】 [実施例2~37]表1~表3に示す組成としたこと以外は実施例1と同様にして細線に仕上げ、試験を行った。測定結果を表4に示す。

〔比較例1~18〕表5~表7に示す組成としたこと以外は実施例1と同様にして細線に仕上げ、試験を行った。測定結果を表8に示す。

【0016】測定方法について述べれば、剪断強度は上記ボンディングを行った後、シェアーテスタを用いて剪断荷重を測定した。96コの平均値を測定結果とした。また圧着径(接着面積)は、上記ボンディングを行った後、測長顕微鏡を用いて超音波の印加方向に対して平行40方向と直角方向の長さの平均を圧着径とし、96コの試料について測定し、その平均値を測定結果とした。

[0017]

【表1】

_	

	組	成		a a a a a a a a a a a a a a a a a a a	
	ו אם	Pt	I n	量ppm) Sb	Sn
実施例 1	1,000 10,000 100,000 400,000		50		S n
実施例 1 2 3 4 5	10,000	-	"	-	i – i
] 3	100,000	-	"	i	_
1 4	400,000	l <del>.</del>	"	_	-
<u> </u>	· —	10.000 5,000	"		
6 7 8 9	5, 000 10, 000	5,000	"	_=	
1	10,000	-	<u>!</u>	-	_
	"	_	100	_	_
10	"	_	1 0 0 5 0 0		<b>–</b> 1
	"				
112345678901234567890	"	 - - -	25		50
1 13	"	_	- 20	20	96
14	"	i —	95	_23	40
15	"		25	25	25 25 10
16	"	_	25 25 50 "	25 25 25 25 — — —	
17	"	_	"	_	_
18	"	_	"	_	
19	"	_	"	_	_
20	"		"		
21	)) ))	_	"		-
46	"	_	"	_	-
43	"	_	<i>!!</i>	_	-
1 55 1	"		"	_	_
26	"		"		
27	"	_	"		
28 1	"		"	_	
1 29 1	"	-	"		
30	"		11	_	_
300345	"		11	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
32	"	_	"		-
33	"	-	"	-	
; <u> </u>	"	-	"	-	-
<del>- ₹} </del>					
36 37	"	-	"	-	_

[0018]

【表 2】

表に例 1			組 成			(雷)	# n n z	<del></del>
実施例 1	[	Ве	Ca	Ge	1 <del>1</del> <del>1</del>			11/
2   —	実施例		_		- XX	<u> </u>	1 6	IVI X
3   —	2		_	l –	_			
4   —	3		_	_ :	l –	_	l _	1 _
5   —	4	_	_	_	_	_		_
6	5				_	l	l _	_
8	6		_	_	_		_	_
10	1 7 1	_	_	_	_	<b>!</b> — .		l –
10	8	_	-	_	_	_	_ :	_
11	1 191	-	_	_	_	_	_ [	_
112	1							_
113	11	- 1	_	-	_	_	-	
14	12	-	- 1	-	-	-		-
15	1 13	_	-	- 1			_	
16 1	14 1	_	_	-	_		-	_
17 10	16	<del></del>						
18 50	1 17	11 1	_ [	- 1		- 1	-	_
19 100	1 19	50	!	_	_ [	-	-	-
20   500   -   -   -   -   -   -   -	1 10	100	_			-	- 1	- 1
21	Į žň l	ร์กัก	_	_ [		_	_	
22 — 50 — — —   24 — — 50 — —   25 — — — — —   26 — — — — —   28 — — — — —   29 — — — — —   30 — — — — —   31 — — — — —   32 — — — — —   33 10 50 — — — —   34 — 50 20 — — —   35 10 50 20 — — —   36 10 50 20 10 10 10 10   37 10 10 10 10 10 10 10	21		50		<del></del> i		<del></del> -	
23	22	-	- "	50	_ !		[	
24 — — — 50 — —   26 — — — — — 50 —   27 — — — — — — —   29 — — — — — — —   30 — — — — — — —   31 — — — — — — —   32 — — — — — —   33 10 50 — — — — —   34 — 50 20 — — — —   35 10 50 20 — — — —   36 10 50 20 10 — — —   37 10 10 10 10 10 10 10	23	- 1	- i	_	5.0	_	_	
25	24	- 1	-	- 1		50 1		_
26 — — — — 50   28 — — — — —   29 — — — — —   31 — — — — —   31 — — — — —   32 — — — — —   33 10 50 — — — —   34 — 50 20 — — —   35 10 50 20 — — —   36 10 50 20 10 10 — —   37 10 10 10 10 10 —	25		1		_	- 1	50	_
27	26	-T	-1	-	-1	-1		50
28	1 27	-1	- 1	-	<b>-</b>	<b>–</b> [	-	- 1
30	78	- 1	-	-	- 1	- 1		- 1
31	1 29	- [	-	-	-	-	- 1	- 1
31	30 1	<del></del> +						
33 10 50 — — — — — — — — — — — — — — — — — —	30	_ [ ]		_	-	- 1	-	-7
34	35	10			-	-	- 1	- [
35   10   50   20   -   -   -   -	34	10	50	20	_	-	- 1	-
36 10 50 20 10 — — — — — — — — — — — — — — — — — —	35	10	50	20	_		- [	-
37 10 10 10 10 10 10	36	10	50	50	11	<del></del> +	<del>-</del> -	
	šī l	iŏl	ió	ini	101	10	10	10

[0019]

【表3】

9

		組	5	<u> </u>	(重	ppr	n)
	La	Се	Eu	Тb	Υb	Lu	Au+ 不可避不純物 残
実施例 ]	_	~-	_			_	残
2	-	-	_	_	_	_	"
3	_	_			_	_	"
4	_	<b>.</b> – .	_	-	_	-	"
天地内 1 2 3 3 4 5 6 7 8 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1							"
5	-	_	_	-	_	_	"
] ]	_	_	_	-	_	-	"
8	-	_	_	-	-	-	"
9	_		_	_	_	-	"
10			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
	_	_	_	-		_	"
12	- 1	-	_	_	_	-	"
[ 13			-	_	_	_	"
14			_		_	_	"
19.1						_	"
10		-		- 1	_	-	"
17			_	-	_	_	"
18	_	1	_	- 1	_		"
13	-		_	- 1	_		"
20							"
21	_			-	- 1		"
22	-	-	-	-	-	_	"
2.5	-	_		- 1	-	_	"
24	-	_	_	-	-	_	"
40					_=	111111	"
20	50	-		-		_	"
20	30		_		_	-	"
20	_ [ ]	30		_	_	- 1	<i>"</i>
20	_		30		_	- 1	"
- 31	50   	- <del></del>		_ <u>DU</u>	<u> </u>		"
30	_ ]	_ [	[	_	3 0		
35	_ 1	_	_	_		90	"
31	_		_	_	50  	_	· ·
1234567899 1111111122222222333333333333333333333	_	_	<del>-</del>	_ [ ]	_	_	"
36	-=+			<del>- =  </del>	<del></del> +	<del>- = 1</del>	<u>"</u>
36 37	10	50	10	50	10	50    10	",

[0020]

【表4】

	701		
	测定定		果
	常温強度	剪断強度	圧 着 径
実施例 1		42. 0 43. 5 44. 2 38. 1	(µm)
2	5.5	42. 0 43. 5 44. 2 38. 1	64. 8
ã١	10.1	49. 3	04, 1
4	10. 1 13. 4	38 1	62. 0
5	4. 6 5. 5 10. 1 13. 4 5. 2	43. 1	64. 8 64. 1 62. 5 61. 1 64. 7
実施例 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	4. 65 10. 1 13. 2 5. 3 5. 0 6. 4		63 8
1	5. 0	43. 4 42. 8 42. 5 39. 3 41. 5	64.5
8	<b>6.</b> 2	42, 5	61. 9
. 9	6. 4	39. 3	60.8
			63. 2
11	7. 4	41. 0 41. 4 40. 5 42. 7	63. 8 64. 5 61. 9 60. 2 62. 9 63. 1 62. 5 61. 0
15	1. 9	41.4	63.1
14	J. 4	40.0	63.8
15	5.6	41. 4 40. 5 42. 2 41. 7	52.5
16	7.5.6.5.6.7.8.8.9.8.5.6.1.0		63. 8 64. 5 61. 8 62. 9 62. 5 62. 5 62. 5 62. 5 62. 5 62. 2
17	7. 6	43. 2 49. 0 44. 1 45. 3	62.7
18	8. 0	44.1	61.3
19	8. 9	45, 3	63.2
20	9, 8		62. 5 62. 7 61. 3 63. 2 62. 2
21	8. 6	50. 1 42. 4	54. 1
44	5. 2	42.4	64. <u>1</u> 62. 7 61. 1
20	0. i	41. 1	61. 1
25	5. 0	41. /	53. 0 52. 9
11 12 13 14 15 16 17 18 19 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30		41. 1 41. 7 9 43. 1 48. 55 47. 5	54. 1 52. 7 51. 1 53. 9 63. 1 52. 2 61. 9 62. 9
27	4. 7 7. 3 7. 3 1. 1	48.5	63. 1 62. 2 61. 9
28	7. 3	48. 2	61 0
29	1.1	43. 1 48. 5 48. 2 47. 5	6 2. Ö
30	5.4	41. 3	62. 9
31 I	b. 6	41. 3 41. 5 40. 7 51. 3 50. 2	62. 5
34	შ. ქ ც 1	40.7	63. 4
31	3. k	31. 3	53. 1
35	5. 4 5. 6 5. 3 9. 1. 8. 6	41. 5 40. 7 51. 3 50. 2 51. 7	62. 9 62. 5 63. 4 63. 1 63. 3
31 32 33 34 35 36	8. 8. 8. 6		
37	8. 8. 8. 6	49. 3 51. 7	60. 9 60. 8

[0021]

【表5】

		_	120	•	
ŀ	組	成	(	重 <b>ppm</b>	)
TI-KE DV	Pd	Pt	In	Sb	Sn
比較例 1	<b>–</b>				<del></del>
2	l –	-	50	l –	_
3	i –	l –		50	1 _
1 4		l –			20
5_		<u> </u>	50	l _	20
6:	_	_	50	<del>                                     </del>	-
1	_	j –	<b>.</b> → `	l –	20
8	. —	l –		l –	20 20
9	10	_	50	l –	
10	10		_		10
] ] ]	10	_	50 50		
12	<del>-</del>	5	50	5	_
13	10,000	-		_`	
14		10.000	_	_	_
15_	10.000		<u> </u>	_	_
16		10,000	<del>-</del>	_	
17 [	10,000	-	1, 000		_
18	500,000 l	_ [	50	_	[

[0022]

40 【表6】

13

		組 Ca	5		(重	ррг	n)
	Ве	Ca	Ge	Ru	Cu	Fе	Mg
比較例丁	_	1			_	-	
2	-	_	-			_	
] 3	_	-		-	_	_	
4	-	_		_	_	_	_
5	10-		_		_		_
6	10						
7	-	-	20	_	_		_
8	_	10	_	_	-	-	_
9	_	_		-	<b>–</b> ,	_	_
10				_	-	_	_
11	10	-	_			-	
12		-	_	_	_	_	_
13	- 1	-	_	_	_		_
14	-	-	_	_	· -		_
15	10	_	_	_	_		_
16	10	_	-	_			
17		-			_		_
18		-			_		_

[0023]

【表7】

効果を示した。

		組		成	(1	THE P	om)
	La	Се	Èи	Тb	Υb	Lu	m) Au+ 不可避不純物 费
比較例 1	_	_			-	_	残
2	_	-	_	_	· —		"
3	_	- ;	_	_	_	_	"
4	-		_	_	_	-	"
5					_		"
6	_		_	_	_	_	"
7	-	-	_	-	_	-	".
8	]	_	_	-	_	-	"
] 9	-	_	_	-	_	_	"
10							"
11	- 1	_	_	_	-	-	11
12		_	_	_	-	_	"
13	-	_	-	_	-	_	"
14	- 1	_	_	_	_	_	"
15.1							"
16	- 1	-	- 1	_	_	-	"
17	~-	_	-	— J	- 1	_	"
18_							"

[0024]

【表8】

	潮定	· 64 T	<del></del>
<del></del>			
	常温強度	剪断強度	圧 奢 径
	(g)	(g)	$(\mu  \mathrm{m})$
比較例 1	4. 0	40.1	80. 2
2	4.3	41. 0	79.8
3	ji i	39. ľ	78.5
7 1	7. 3	38. 5	78.7
3	9. 4	) C. J	
<u></u> -	<u> </u>	<u> 40. 2</u>	75.1
6	5. 5	24. 7	61.3
۲	4. 5	41. 5	78. 2
8 1	5. 6	41. 1	77 1
9	4. 6	áñ i	77 0
1 Õ	À Ř.	40.5	78. 2
11	5. 0	41. 8	77 5
12			11.3
	4. 3	40. 5	19. 3
13	4. 8	40.8	75. 8
14 1	4. 8	41.0	15.1
15	7. 2	42, 2	75. 8
161	7. 1.	42. 1	75. 9
17	5. 2	28. 5	53. 2
18	13. 1	8.3	68.8

【0025】表4及び表8の測定結果から明らかなよう に、直径20μmワイヤを使用した実施例1~37に示 した本発明実施品は、高速自動ボンダを用いてシリコン チップ上に付着したAI膜に超音波併用熱圧着ボンディ ングを行った場合、剪断強度は38.0g以上が維持出

- 3. 25倍(圧着径65 μm)以下と低く抑えることが 30 出来るという優れた効果を示した。さらに、Pd, Pt のうち少なくとも1種の成分が1,000~100,0 00重量ppmである本発明実施品は、剪断強度39. Og以上が維持出来るというより優れた効果を示した。 さらに、In, Sb, Snのうち少なくとも1種の成分 が1~100重量ppmであり、Be, Ca, Ge, R u, Cu, Fe, Mg, 希土類のうち少なくとも1種の 成分が1~100重量ppmである本発明実施品は、剪 断強度40.0g以上が維持出来るというさらに優れた
- 40 【0026】これに対して、Pd, Ptのうち少なくと も1種の成分を1,000重量ppm以上含有しない比 較例1~12の場合、剪断強度を38.0g以上維持し ようとするとき (比較例6以外) に圧着径はワイヤ径の 3. 75倍 (圧着径 75 µm) 以上と大きくなり、ま た、圧着径を3.25倍(圧着径65 μm)以下と低く 抑えようとしたとき (比較例6) に剪断強度は低く、ど ちらも満足な効果が得られない。さらに、Pd, Ptの うち少なくとも1種の成分を1,000~400,00 O重量ppm含有しても、In, Sb, Snのうち少な 来ているに関わらず、圧着径(接着面積)はワイヤ径の 50 くとも1種の成分を1重量ppm以上含有しない比較例

 $13\sim16$  の場合、剪断強度を38.0 g以上維持しようとするとき、圧着径はワイヤ径の3.75 倍(圧着径  $75\mu$  m)以上と大きくなり、満足な効果が得られない。さらに、I nが500 重量 p p mを越えて含有された比較例 17 は剪断強度が低く満足な効果が得られない。また、P dが400, 000 重量 p p mを越えて含有された比較例 180 場合、剪断強度が低くなることに加えて、半導体チップにクラックが生じるため実用的ではない。

#### [0027]

【発明の効果】本発明は以上説明したように、高純度金に、Pd, Pt、In, Sb, Sn、Be, Ca, Ge, Ru, Cu, Fe, Mg, 希土類を上記構成となるよう含有した組成にすることにより、それら金属元素同士の相乗効果によって、超音波ボールボンディング法で熱圧着した場合、接着面積(圧着径)を小さくしても所定の剪断強度が得ることが出来た。従って、半導体装置の組立て、詳しくは、ICチップのAI電極と外部リー

ドとの接続、及び、ICチップのA1電極と基板又は外部リードとの接続において、半導体チップサイズを大きくすることなく多ピン化を実現でき、半導体装置の高密度化、高機能化に対して極めて有用なボンディング用金線を提供できた。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】超音波併用熱圧着法を用いたワイヤボンディング方法を説明する簡略図。

#### 【符号の説明】

10 1:金線

2:キャピラリ

3: トーチ

4:ボール

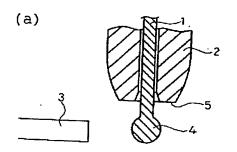
5:フェイス

6: I C チップ

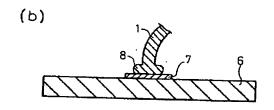
7:電極部

8:圧着ボール

【図1】







#### 【手続補正書】

【提出日】平成6年11月10日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正内容】

【0011】次に、本発明の金線の成分組成を上記の通り限定した理由を説明する。

[Pd, Pt] Pd, Ptのうち少なくとも1種の成分 は、In, Sb, Snのうち少なくとも1種の成分との 共存において、超音波ボールボンディング法で熱圧着し た場合、接着面積(圧着径)を小さくしても所定の剪断 強度が得られるという優れた効果を有する。Pd, Pt のうち少なくとも1種の含有量が1,000重量ppm 未満では所定の剪断強度を得るためには接着面積が大き くなり、400,000重量ppmを越えると所定の剪 断強度が得られない。このため、Pd, Ptのうち少な くとも1種の成分の含有量は1,000~400,00 O重量ppmと定めた。Pd, Ptのうち少なくとも1 種の成分を単独で含有させた場合は、所定の剪断強度を 得るためには接着面積が大きくなるため、In, Sb, Snのうち少なくとも1種の成分との共存が必要であ る。Pd, Ptのうち少なくとも1種の成分のより好ま しい含有量は1,000~100,000重量ppmで あり、この範囲において、接着面積を小さくしても剪断 強度はより優れた効果を示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正内容】

【0026】これに対して、Pd, Ptのうち少なくと も1種の成分を1,000重量ppm以上含有しない比 較例1~12の場合、剪断強度を38.0g以上維持し ようとするとき (比較例6以外) に圧着径はワイヤ径の 3. 75倍 (圧着径 75 µm) 以上と大きくなり、ま た、圧着径を3.25倍(圧着径65 µ m)以下と低く 抑えようとしたとき (比較例6) に剪断強度は低く、ど ちらも満足な効果が得られない。さらに、Pd, Ptの うち少なくとも1種の成分を1、000~400、00 0重量ppm含有しても、In, Sb, Snのうち少な くとも1種の成分を1重量ppm以上含有しない比較例 13~16の場合、剪断強度を38.0g以上維持しよ うとするとき、圧着径はワイヤ径の3.75倍(圧着径 75μm) 以上と大きくなり、満足な効果が得られな い。さらに、Inが500重量ppmを越えて含有され た比較例17は剪断強度が低く満足な効果が得られな い。また、Pdが400,000重量ppmを越えて含 有された比較例18の場合、剪断強度が低くなるため実 用的ではない。

# THIS PAGE BLANK (USPTO)